

パリ郊外での移民少年の感電死を引き金に起きた暴動はフランス全土に飛び火し、サルコジ内相の「社会のクズ」発言が更に火に油を注いだ。仏政府は、遂に半世紀ぶりに非常事態宣言を発せざるを得なくなった。数百万人とも言われるイスラム系住民を抱える仏は、同化政策を採ってきたけれども、社会格差問題を知りながらも有効な手を打ってこなかった、そのつけが今回の暴動であろう。

移民を安い労働力として受け入れるだけならば、日本も将来同じような問題が起きよう。自らは所謂 3K とされる労働を忌避し、外国人の単純労働に頼るようになったら、勤勉を美德とする日本の美風を喪失し、仏の二の舞を演じかねない。

先程のニュースで、ボージョレヌーボオの第一便が日本に到着したとの報道があった。解禁日は、11月の第3木曜日今年は17日だそうだ。

「閑話休題」



(10月桜 : 皇居二の丸庭園にて、山下11月9日撮影)

さて、11月9日の昼休みのウォーキングに久々に皇居二の丸庭園を歩いた。その時に小生の目を引いたのが写真である。「サクラ?」「狂い咲き?」と吃驚して近寄ってみたら、正真正銘の桜である。しかも「10月桜」と札が下がっている。迂闊にも「10月桜」なるものがあるとは知らなかった。確認しただけで、園内に二本の10月桜があり、夫々満開であった。

調べてみると、この桜は、2度咲きする。10月頃から翌年1月頃まで全体の蕾の1/3ほどが咲き、残りは翌春に咲く。花卉は八重で、白または薄いピンクである。似たものに冬桜があるが、こちらは、花卉は一重である。

10月桜以外にも2度咲きするものとして、冬桜の他、四季桜、不断桜などがある。サクラ咲くのは春と言う固定概念は放擲しなければいけない?

関心のある方は、是非二の丸庭園をたずねて見ては如何だろうか。一見以上の価値があること請け合いである。



(オープン直前のトキア)

東京駅周辺の再開発が急ピッチである。バブルの再来を思わせる。今日11日1700にオープンするトキアを昼休みのウォーキングで見に行ったら、既に100人位であろうか、オープンを待ちきれずに列を成していた。

トキアのホームページや三菱地所の発表資料によれば、『生まれ変わった「東京ビルディング」の地下1階~3階に揃った全29店舗の商業ゾーンが「東京ビル TOKIA」』である。

東京ビルは、総事業費 450 億で、東京中央郵便局横に建設された地上 33 階、地下 4 階建て、高さ 164 メートルの超高層ビルである。

関西の個性的な名店から大人が楽しめるレストラン&バー等が揃っており、また、ビューティ&スパや女性専用クリニック、託児所といった女性が輝く為の施設をも備えてある。

「TOKIA (トキア)」とは、「東京ビル」の「TOKYO」に「TOKIMEKI」、そして施設のコンセプトでもある「All day、Any day、食と音楽と美を楽しむ Amusement」の「A」を組み合わせたもので、「東京・丸の内に新たに生まれた大人のトキメキのあるユートピア (理想郷)」の意を込めたと言う。

トキアの開業により、丸の内仲通に加え、東京駅から東京国際フォーラムを経由して有楽町駅を結ぶ賑わいの軸が加わることになり、街の回遊性は一段と強まるものと期待されている。この界限はさしずめ三菱村か。

当社の横では、香港資本の超高級ホテル「ペニンシュラホテル」の建設が急ピッチである。丸ビルの方も同様だ。

東京駅、丸の内、有楽町界限の変貌振りに、ここに勤務して 1 年半であるが、驚かざるを得ない。